

アオザイ－ベトナムの民族衣装

CMF 記者（ベトナム）

アオザイとは何か？

アオザイとは、『長い衣』という意味で、女性の魅力を強調して、優雅に見せるベトナムの民族衣装である。中国風の丈の長い上衣と長ズボンを組み合わせ、両脇のスリットがウエストまで切れ上がるので、風にそよぐのはアオザイの美しさだといわれている。



アオザイの歴史

アオザイは元々男の服だったのである。男性のアオザイいわばアオテー（ao the）は、横のスリットはウエストまでで、全体にざっくりとした大きめの印象がある。２０世紀前半に西洋の衣服のデザインをアオザイに取り入れ、今のように女性の体のラインにピッタリしたものに改良したのだそうである。



Ao the

それでは、昔、女性がどんな服を着ていたかというと、これはアオ・ツ・タン（ao tu than）つまり四つ身頃の服である。左の写真のようにスカートの上に前の割れた長衣、中にＶネックのブラウスだった。後ろ身頃も二つ見頃をはぎ合わせて作るので、「四つ身頃の服」と呼ばれる。



Ao tu than

だが残念ながら、Ao the と ao tu than の姿は現代ではほとんど見ることができない。伝統芸能や昔ながらの祭りで時々見られる程度の珍しい衣装となっている。

Quan ho（歌）-ベトナムの伝統芸能

アオザイも毎年の流行があり、シルエットだけでも、襟の高さや形、上着のすその長さ、パンツの幅やすそのデザインなど、微妙に変わってきている。当然、色と素材もどんどん変化している。以下の写真は最近はやっているアオザイである。

これらのアオザイを見ると、伝統的なアオザイと違うことが分かる。左から一番目と二番目のアオザイは四角い襟で、ピンクなのはシルクで作られているが、二番目の青いのは昔は使われなかった新しい素材のオーガンジーで作られている。三番目はチョカムと呼ばれるベトナムの少数民族の素材で作られ、襟元も変わっていて丸首である。一番右端の写真は、ファッションショーに出るアオザイで、日常生活では見られない。






アオザイはどんな時に着られるか？

他の国の民族衣装と比べ、アオザイは着られる頻度が多いと感じる。街を歩くと、赤や紫、黄色など目の覚めるような鮮やかなアオザイ姿の女性を見かけることが多い。郵便局や銀行、ホテルなどで働く人が制服として着る場合が多く、たいていは結婚式や正月などの華やかな場で着るのである。特に『白は未婚のティーンエイジャー用』『色がダークになるに連れてオバサン度が高くなる』というお作法があるので、ベトナムではその白のアオザイが女子校の制服になっている。学生たちは自転車に乗り、真っ白なアオザイをひるがえしながら通学している。白いアオザイを着ている女子学生の姿を見ると、純潔で清楚な落ち着いた感じがある。白いアオザイは女子学生にイメージが繋がって、女子学生のシンボルになっている。




- 卒業式、入学式、結婚式、正月…などの特別なイベントで着られる。





- 銀行、郵便局、航空会社で働く女性、そして中学校と高校の女子学生の制服として着られる。

最近のアオザイについて話題になっているニュース

２００５年９月の「アオザイは女子中高生の制服に適しているか」という女子中学生の新聞投稿をきっかけに、教育省は、１１月に開くセミナーで識者や親たちの意見を聞くことにした。



- 反対の理由：＊着用しにくい。
＊素材が化繊中心で暑い日や雨の日にはべとつく。
＊安くない。貧しい家庭には負担。
＊自転車通学の場合危険。
＊洗濯が大変。

- 賛成の理由：＊伝統的な文化であるアオザイを守るべき。
＊　女子学生のシンボルになっている。
＊

- 「青年」新聞の調査結果　：
＊支持＝４１％
＊支持するが頻度を減らす＝５３％
＊全廃＝６％

確かに、アオザイを着るといろいろな不便があるが、白いアオザイは、長い間ベトナムの女子学生のイメージに繋がっているので、全廃すれば、非常に残念だと思う。そこで、毎日着るのは無理だが、女子学生は週に一回だけでも誇りを持ってアオザイを着たらいいのではないかと私は思う。

ベトナム人はアオザイを誇りにしている。ベトナムの女性は外国に行ったら、必ずアオザイを持参する。「パリやロンドンなどいくら遠いところに行っても、アオザイの姿を見ると、故郷がここにあると感じられますよ」という言葉が、ベトナムの有名な歌にある。
確かに、アオザイはベトナムのシンボルになっている。

